

## 2025年度 LCA国際小学校 学校自己評価

学校教育目標	重点目標（中・長期目標）	総合評価					
<p>◆社会の一員として個性を生かして、社会に貢献できる人間の育成</p> <p>◆世界を舞台に活躍できる人間の育成</p> <p>◆生きることの素晴らしさを知った人間の育成</p>	◆グローバルな視野をもち、自己肯定感、Well-beingが高い児童を育成するための教育のさらなる向上	<p>LCAの理念と近い中高と提携し、相互交流、連携を図ることができたことは大きな成果である。また、全国学力調査のアンケートにおいて、「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に、96.7%の児童が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した。</p> <p>今年度は、高学年算数における「ベーシック算数クラス」、G1の英語レベル別のクラス横断授業を導入し、個々の習熟度に適合したよりきめ細かな指導によって、児童が「わかる」喜びを積み重ねられる取り組みのさらなる向上を図った。英語教育では、後期から3～6年生で導入した「All English Class」が、語学力のみならず異文化への適応力と挑戦意欲を醸成。主体的に言語を操り、高い目標を突破した経験は、グローバル社会を生き抜く自信と確かな視野を児童に与えている。</p> <p>さらに、保護者有志による「コミュニケーションチーム」との連携や、児童支援部会による重層的な見守り体制の構築は、学校・家庭の信頼関係を深化させた。児童が周囲の大人から尊重され、安心できる環境で個性を伸ばせる体制を整えたことは、情緒的な安定とWell-beingの向上に直結している。今後は、行事等における保護者との連携の精度をさらに高め、学校生活のあらゆる場面で児童が自己の役割に誇りを持ち、他者と協働しながら高め合える教育活動を一層推進していく。</p>					
	今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	子どもの個を尊重した教育と英語教育の質の向上	<p>本年度は「個の尊重」と「英語教育の深化」を軸に、教育の質を大幅に向上させた。高学年の算数科では、基礎の定着を目的とした「ベーシック算数クラス」を新設。G1英語では、レベル別授業を導入。習熟度別指導の拡充と個々の理解度に合わせた教材活用により、児童の学習意欲と定着度を大きく高めることに成功した。</p> <p>英語教育全般では、後期から3～6年生において「All English Class」を導入。英語教育における成果の目安として、1月末時点で、英検1級1名、準1級12名、2級39名、準2級16名という合格実績を収めている。</p>	○				
保護者とのコミュニケーションの充実と学校と家庭の協力体制の増進	<p>本年度は、保護者有志による「コミュニケーションチーム」を発足し、学校と家庭の協力体制を飛躍的に強化した。同チームと共同で実施した大規模アンケートにより、保護者の意向を主軸とした現状課題の抽出をした。これらを「緊急度」と「重要度」に基づき優先順位付けし、具体的な対応策を検討した。現在も定期的な協議を継続しており、検討された改善事項を順次学校運営に反映させることで、学校と家庭との信頼関係を深めている。</p>	○					コミュニケーションチームの運営や今後の企画等について、チームメンバーと学校でよく話し合って進めていきたい。

領域	対象	目 標	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
教 育 活 動	教科指導	受験ニーズの多様化に備えた、算数における多様な指導体制を整える。英語力向上のための授業の工夫を行う。	高学年算数において、新たに設置したベーシック算数が効果的に機能したか。英語科の中で週1時間設けた英語だけを話す時間がきちんと行われたか。	高学年の算数科において、基礎事項の定着を目的とした「ベーシック算数クラス」を新設し、習熟度別指導の拡充を図った。G1でも英語レベル別のクラス横断授業を導入し、個々の理解度に合った教材を活用することで、きめ細かな個別指導を実践した。また、後期から3～6年生の英語科において「All English Class」、英語によるスピーチの実践の場を増やすことで、言語習得に資する環境を整備した。一連の新規施策に対し、児童の学習意欲は高まっており、学習内容の定着および技能向上において概ね期待通りの成果が得られている。	○					どちらも今年度からの取り組みであるため、子どもたちの様子を見ながら、適宜改善を重ねていく。
	特色ある教育活動	キャンプやスキー、パフォーマンスデーなど、LCA独自の教育活動が計画的かつ適切に行われたか。	大きなイベントの準備や連絡、関係機関との連携がスムーズに行われたか。子どもたちが一つひとつのイベントを通して、成長する姿が見られたか。	各行事における実施要項の提出期限を厳守し、計画的な運営を推進した。一部行事において外部機関との連携不足に起因する課題が生じたが、発生要因の特定と検証を行い、次年度に向けた再発防止策を策定した。教育活動においては、野外・自然体験活動を通じて、児童が主体的に活動に取り組む姿が見られた。また、パフォーマンスデーでは、学年ごとのテーマおよび指導事項を明確化したことで、児童一人ひとりが役割を遂行し、目的を完遂することができた。	○					大きなイベントにおいては、校内関係者が多岐にわたり、経験の浅い職員が参画する機会も多い。また、外部連携において情報更新の徹底が不十分な場合、旧来の運用が踏襲されるリスクが懸念される。今後は、前年度の反省事項および変更点を重点項目として共有し、特に新任者等へのフォローアップを強化することで、遺漏のない連携体制を構築する。
	児童支援	児童指導／支援の記録をすべての教員が残り、児童指導担当のもと、適切な指導ができるよう徹底する。	児童指導／支援の記録をきちんと残り、管理できたか。児童支援／支援について、児童指導主任を中心に適切な指導ができたか。	日常的な児童指導において、児童指導主任との常時相談体制を維持するとともに、月例の「児童支援部会」を開催した。支援記録・指導記録に基づく組織的な情報共有を徹底することで、各事案に対する共通理解を図った。また、児童指導主任による全学年メールのモニタリング、および学年主任による週例学年会での指導状況確認を継続。重層的な情報把握により、個々の事案に対する適時かつ適切な指導を実現した。	○					児童指導主任の負担が大きいため、学年主任や他の教員だけでも取り組みを継続できるように、指導育成を図っていく必要がある。
学 校 運 営	保護者との連携	保護者に学校とのさらなる連携強化を図るためのコミュニケーションチームを発足し、定期的にミーティングを開催して、保護者の声を吸い上げ連携を深めていく。	コミュニケーションチームの発足ができたか。保護者の声を吸い上げ、学校運営の改善や課題解決に結びつけていくための定期的にミーティングを開催できたか。	保護者有志による「コミュニケーションチーム」を設立し、同チームとの共同により大規模なアンケート調査を実施した。調査結果から得られた保護者の意見を主軸として、現状の学校課題を抽出。それらを「緊急度」および「重要度」に基づき優先順位付けし、個別の課題に対する具体的な対応策を検討した。現在、保護者との定期的な協議を継続しており、検討された改善事項は順次、学校運営へと反映されている。	○					引き続き、抽出された課題についての具体策を話し合い、よりより学校づくりへ向けて保護者とチームになって取り組んでいく。
	外部連携	LCAの理念と近い中高と提携し、相互交流、連携を行う。	提携校をつくることができたか。	八雲学園中学校高等学校（東京都目黒区） 工学院大学附属中学校・高等学校（東京都八王子市） 文化学園大学杉並中学・高等学校（東京都杉並区） と提携を結び、人材交流や施設交流、出前授業などの相互交流、連携を行うことができた。	○					今後もLCAの教育理念に合った提携校を増やしていけるようにしていく。
	研修	学園長の思いを教職員へ浸透させるとともに、教員が子どもたちの良いところに着目しGood Pointを大切にしている精神をさらに強化していく。	毎週木曜日の放課後の時間を活用し、計画的に研修を行うことができたか。	毎週木曜日の放課後を定例の「教職員研修・連絡時間」と設定し、学園長による理念浸透のためのQ&A、教員間の「Good Point（児童の長所）」共有、および職員会議を体系的に実施した。特に教員間交流においては、児童理解の視点を共有するだけでなく、指導上の課題や悩みを相談する対話の場として機能した。このように、定期的な相談機会を構造化したことは大きな成果である。一方で、大型行事や学期末の繁忙期には、予定していたスケジュールが変更・調整を余儀なくされる場面があり、運用の柔軟性と安定性の両立が今後の課題となった。	○					今後、LCAの理念を具現化した授業についてのケースを扱ったり、LCAの教育方針を学ぶ研修の充実を図ってきたい。